

第1回目の来場者は40名、その中から14名に回答を頂きました。また第2回の来場者は80名、その中から同じく14名の方から回答を得たものです。全体では120名の参加者から28名の回答を得ましたので、回答率は23・3%、2割強でした。ホンの僅かですが被災から1年後の現時点で、「人吉の町のこれからについて」回答者が感じておられること、期待されていること、人吉の町がこんな町になればとイメージされていることをご紹介します。その内容表現使われている言葉（用語）は、ほぼそのままの表現で書いてみました。アンケートの形式と内容は本誌7月号の49頁をご覧ください。

「被災した人吉のこれからを考える・アンケート」質問と回答：

アンケート配布者総数は120名、回答者総数は28名、回答率は23.3%。性別は男性15名、女性12名、不明1名。年齢は30歳代1名、50歳代3名、60歳代7名、70歳代11名、80歳代4名、不明2名。地区別では人吉市内19名、球磨郡7名、県内2名でした。記載不備の1名分は削除しました。出来るだけ各自が記載された内容のそのままを多い順に列記してみました。記載なしの数は省略しました。

1、あなたは昨年2020年7月の水害で被災を受けましたか

1受けた：19名（67%） 2受けない9名（32%）

その内容例：全壊、大規模半壊、田圃、農業機械、床上185cm 2階床上70cm、会社が2m60cm 通勤不能、などの多表現で記載されていた

2、なぜ？この熊本大降雨で水害被災が起きたと思われますか

理由：線状降水帯（豪雨）、地球温暖化、行政の不備、治水（川整備）の不備、予想不備、堆積土砂不撤去（川底浚い・ダム底浚い）、流れ悪く川床高く草木が生えた、1番の原因は瀬戸石ダム、市房ダム・清願寺ダムから排出された森林荒廃の放置（山や谷の整備）、ダム中止12年間の無策、ダム製作者の責任、行政にその気なく住民は行政任せ、災害対策が不十分、橋に木が引掛かり鉄砲水、自然を観察し森と川と共に生きる、山の手入れ不足、ダムに頼る治水、インフラの弱さ



再び球磨川の増水（7月10日朝8時）

人吉の復興まちづくり、に向けて…シリーズその②
個人アンケートから被災した人吉のこれからを探る
Ⅱ被災から1年、人吉の町のこれから、をどう考えますか？Ⅱ

人吉市民 松本晋一（人吉市九日町）

はじめに

7月10日早朝、再び昨年に似た豪雨で流域住民への避難指示が携帯と放送で鳴り響き、あの時を彷彿とさせましたが、天候はすぐに回復。数日後の今はもうその記憶も遠のき、あの時の感覚を忘れた自分がこの原稿を書いています。

本誌7月号で掲載・紹介したように、1年前の7月4日熊本大降雨水害で被災した人吉のこれからを探るために「被災した人吉のこれからを考える・アンケート」を作成。第1



アンケート会場②「豪雨災害説明シンポ」7月3日

回は6月27日「間野博氏講演会・土地区画整理事業とは」（新町会館）、第2回目は7月3日「豪雨災害の実体解明を深めるシンポジウム」（同新町会館）の2会場で本アンケートを実施してみました。その結果を以下にご紹介します。

7、皆、家と土地の所有者も違い、やりたいことも違うが、必要、共通なこと

答え：両者の思いが活かされること、今後の都市づくり、明るい未来を持つ、水害に負けない町づくり、住み良い環境、被災住宅の再建に全力を尽くす、アンケートをやるべき、互いに要望を出しキャッチボールする、人吉のイメージづくり、現実的にはお金、住みたいと思う環境、生活が成立つこと、団結して川と共に生きる方法を探り実行、人吉を嫌にならない、意見を出し合う、良い町を創る思いは同じ、資金と意見の一致、十分な話し合い

8、被災した元の場所で住みたいですか、違う場所に移転しますか

1、元の場所：8名（28%） 2、違う場所：4名（14%） 他は無回答

その理由：二度と被災したくない、都市計画が先である、球磨川と共にしたい、中心部に店舗がなければ町が成立せず、今の治水対策はこわい、治水が進まない、また水害が起こる、その場所が好き、愛着がある

9、人や資金をどこから、どう持ってくればよいか、何か良い便利な方法があれば

答え：住民の熱意があればお金はある、ダム資金を復興に廻す、地域内ネットワーク、資金は国や税金、国庫補助金で、都市のつながり、良い方法はない、温故知新で歴史に学ぶ、ふる里納税のお金から、誰に相談するのか、行政支援を増す

10、肥薩線、くま川鉄道の今後について どちらが必要か、その理由

答え：1、両方必要：24名（85%）

理由：鉄道は二度と造れない、公共機関は復興の原点、人吉球磨が栄えるために、人と人をつなぐ役割がある、観光事業者に必要な、将来は廃止になると思う、生活に必要な、生活の足、コロナで使いにくい、鉄道は復興の力、肥薩線は難しいかも

2、肥薩線は不要：なし、くま川鉄道は不要：なし

3、両方不要：2名（2.5%） 4、判らない：1名

意見：将来は廃止になると思う、まずは町づくりが先、鉄道は必要、肥薩線はむずかしいかも、陸の孤島になる、なくなるのは悲しい、実際は赤字路線なので復旧へお金を廻すべき、使わないモノにお金をかけるべきではない



青柳俊彦 JR九州社長：鉄道での復旧で、2021年度末に判断（21.7.16 熊日）

3、この水害で学んだこと、まだ今、困っていること（コロナ禍のことも可）

学んだこと：早く避難、逃げるに如かず、災害への備え、皆さんの支援、被災者に冷たい、現状分析が不十分、水田復興が進まない、ダムによらず今まで以上の治水対策、市房ダムは緊急放流しないと県は言ったが信用出来ない、文化が壊されてしまった、人間は自然に勝てない、受け入れて生きる、山林をもっと手入れする、山林の保全を、防災組織の弱さ、ハザードマップの利用、水害は再びある

困ったこと：復興の見通しがたたない、費用がかかる、資金づくり、盗難被害、地域のパワーダウン、町づくりの先行き不明、九日町が商店街として存続可能か不安、人吉の復興見通し立たず、コロナ禍を持ち込んだ自民党、安全な道路

4、今、被災した人吉の町づくりの復興青写真には何が大事か、先ず何をやるべきか

答え：同じ水害を起こさない、インフラの基本整備、住民の意見を聞く、都市機能を引っ越す、町づくりの柱・基本指針を示し住民の声を聞く、球磨川の清流を残す、百年の大計に立った計画、リーダーが目標を示す、治水対策（川底掘り）、原因の検証、住む人の気持ち大事に、人口減少少子高齢化の中でハードは不要、安全な場所確保（造成）、被災者の意見を十分汲み上げる、温泉の復活、早く町に人を戻す⇒住居確保、町の中心に人が安心して暮せること、産業が活かせる町づくり、旧い家町並みを残して小京都にする、住民と役所が話し合う、生活の再建、早めの避難、危険な所に家を建てない、資金が必要、再開発地区の意見の一致は不可能、観光の町づくり

5、5年後の人吉の町のあるべき姿、取敢えずのゴール、復興の象徴・目標とは？

答え：町中に人（人口）を戻す、移転しての町づくりとインフラ整備、住民と役所が話し合う、低い土地の嵩上げ、治水対策、中心地に図書館を、中心街の復興、住民主体の町づくり、くま鉄の再開、ねばり強い話し合い、人吉生活者の安全、人々は人吉の良さを求めて来る、町の機能を取り戻す（商店・スーパー）、高齢者を大切に、元の場所で生活出来るようにする、観光の町を目指す、川と共に生きる、山と川を一体に考える、ダムやテトラをなくす、復興住宅ビル、復興飲食ビル、街中公園、被災者と非被災者の考え一つに、住んで良かった町に、昔の人吉に戻す、取り敢えず住む所を

6、住民と行政が相互にきずな、協力、つながりを持つためにはどうすれば良いか

答え：今ある提案の整理と発表、行政と日頃何度も話し合いを持つ、意見を反映させる、住民の合意形成、公民館の活用、町内会長がまとめる、代表者ではなく地区住民の声、一方的に行政が押し付けないこと、生活者協議会を機能させること、細目な情報公開・意見公開、首長が働きかけるのが1番早い、会で案づくり、テーマ共有、行政が聞く耳を持つ、被災者に寄り添う、他人ごとではない我が故郷の大問題、被災者非被災者の考えを一つに、行政が真剣に住民の声を聞く

11、上記以外に、今すぐやること、早期に決めること、やるべきこと、やりたいことは

【答え】：河川のドロ出し、これからどうすべきかを聞く、しっかり青写真を決める、温泉復活、鎮山親水を進める、ダム撤去、事実調査をやり出来る治水を行う、タクシー券の利用、ダム前提の計画をやめる、行政活動の見える化、市町村合併、復興青写真を決め国補助金の活用

12、その他、言いたいこと、聞きたいこと、不平・不満なんでも

【答え】：人はそんなに長くは人の話は聞けない、相良村と人吉市民の意思疎通がない、住民参加を徹底させる、人吉は城下町として生活、医療保健福祉への国庫財源投入、自転車道路の整備、国県市は発想がテンプレートすぎる、中川原の土砂溜まり過ぎ、ダムは絶対に要らない町が死ぬ、行政の動きを回覧して欲しい、私も他所へ行きたくない、市・県・国は何を目標としているか、政治も行政も住民の意見を聞け、市長ガンバレ、人モノ金になると思う、情報公開、これからどうするかが見えて来ない、市民の合意、ダム中止時に遊水池や治水処理を早く作るべきだった

○まとめⅡ個人アンケートから被災した人吉のこれからを考える

アンケートの回答者は2つの会場参加者（アンケート配布者）120名中28名（23・3％）。被災を受けた方67％（19名）、受けない方32％（9名）。水害被災の原因は天災と人災の両方が67％（19名）、天災が原因した方は0％であった。

テーマ①熊本大降雨水害被災から1年、災害を経験して見えてきたものは何ですか？

・アンケートから言えること…

- 1、地域住民の意見をより聞くべき、だが皆さんの声はまとまってはいない
 - 2、同じ水害を起こさないⅡ治水対策、川底浚い他、やるべきことをやっていない
 - 3、川と共に生きるⅡ被災した元のところに住む28％、しかし他は無回答
 - 4、ダムについての良い評価はなく、ダムの存在を原因とする意見あり
 - 5、まだ心配の種がある、それは次に来る水害である、そして次の見通しが立たない
 - 6、資金繰りは国や県の行政支援で、熱意があればお金がある
 - 7、肥薩線、くま川鉄道は両方ともに必要（85％）
 - 8、早くやるべきことⅡ泥だし、ダム撤去、しっかり青写真を決める
 - 9、言いたいことⅡ目標、情報公開、意思疎通、合意
- ・見えてきたものは、
- 1、皆さんの声、意見はまとまってはいない
 - 2、ダムについての良い評価はない
 - 3、まだ心配の種がある、次の水害、資金繰り、移転先
 - 4、テーマ別に問題点を抽出し、なんらかの早期の対策が必要

テーマ②被災した人吉に大事なことで、この町をどう創っていけば良いでしょうか？

・アンケートから読み取れること…

- 1、町づくりの柱・基本方針、目標をリーダーが示す
- 2、皆の意見をしっかりと聞くⅡ意見を出し合う
- 3、人を町に戻し、町の機能を取り戻す
- 4、人口減少の中で町にハードは不要
- 5、ある程度の人々はこの災害を、そのまま（自然に）受け止めている

〈筆者の個人的な思い〉

- 1、より多くのしっかりしたアンケート調査を行うⅡ被災者、非被災者で集計を分ける、アンケート数を増やすことで回答がどう異なるか、変化するかをより探るべき、それらを市民と行政の双方に提示しⅡより多くの市民の本心を明らかにする
- 2、意見を書く人は意識のある人、書かない人は意識や興味のない人と決めつけて良いか。同様に会合に参加しない人、選挙に行かない人も同様、彼らをどう判断するべきか、不参加のその理由は何か
- 3、市民と行政がもっと話合う
- 4、行政と住民との差配役は中央のコンサルタントではなく地域を知る住民の手で
- 5、川辺川ダム中止からの13年間、治水・治山は無策とのこと、本当にそうなのか
- 6、アンケート内容を元に次にどんなアクションをすべきか？Ⅱまず今は皆で意見を出し合うことが大事Ⅱテーマ別に意見を把握して次の問題解決の行動を

※今回のアンケート調査実施と回答にご協力・ご支援を頂いた多くの住民の皆様、関係の皆様方に厚くお礼を申し上げます。アンケートはまだ募集中です。アンケート用紙をご希望の方は本誌7月号の49頁を複写するか下記連絡先まで。

（連絡先）人吉市九日町1-15 TEL 0966-22-2928 FAX 0966-25-1360



球磨川下り人吉 HASSENBA オープン前日（7月2日）

（関連資料）

“人吉の復興まちづくり”に向けて…シリーズその① 被災から1年、“人吉の町のこれから”をどう考えますか？Ⅱ個人アンケートから被災した人吉のこれからを探るⅡくまがわ春秋第64号（2021・7）46～51P